

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	浜松市立可美小学校校舎改築工事	階数	地上3階
建設地	静岡県浜松市南区若林町1748の1	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内	平均居住人員	900 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,900 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2019年6月1日
敷地面積	18,877 m <sup>2</sup>	作成者	大畑伯之
建築面積	2,275 m <sup>2</sup>	確認日	2019年6月10日
延床面積	5,428 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	0	
<b>Q1 室内環境</b> 教室等の窓はカーテン、また外部にバルコニーを設け熱の侵入、昼光制御に配慮	<b>Q2 サービス性能</b> 床下に配管ピットを設け、設備配管類のメンテナンス、更新を容易にした。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 建物の周囲に程よく緑化し、景観、温熱環境に配慮した
<b>LR1 エネルギー</b> 建物外壁・屋根等の断熱に硬質ウレタンフォーム吹付(A種1)、窓にはカーテン・ブラインド等を採用し、外皮の熱負荷抑制に努める。また設備機器も効率の良いものを採用しエネルギー消費の高効率化を図る	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 仕上げに有害な揮発性化学物質を含まない材料を選定した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 光害対策ガイドラインに沿って光害を抑制する。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	浜松市立可美小学校校舎改築工事	BEE	1.5	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.6	/5		ふつう		
”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	4.1	/5		よい		
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.1	/5		ふつう		
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	3.0	/5		ふつう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例 よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目			
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。					
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)		得点	3.6		
■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①建物外壁・屋根等の大半にウレタンフォーム断熱材を採用 ③教室等の窓はブラインド・カーテン、また外部にバルコニー・庇を設け屋光制御 ④給排水管の交換が容易なように配管ビートを設置した  ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内の外構緑地指数30%近くを確保した。 ⑥敷地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。  ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率運用) ⑦BPI <sub>m</sub> =0.68 BEI <sub>m</sub> =0.76 ⑨LED照明の採用。高効率空調機等の採用。  ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫ビニル系床材をグリーン調達品目を採用 ⑬床シート、壁紙(クロス)の接着剤は有害物質を含まない材料を採用 ⑬断熱材、冷媒はODP=0、GWPの低い材料を採用  ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑮夏季卓越風向に対する見付面積比を70%以下とし、隣棟間隔指標を0.5以上とした。 ⑮外構の舗装面に緑化ブロック・透水性舗装・遮熱性舗装を採用した。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④  Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥  LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩  LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬  LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 屋光利用設備 ③ 屋光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	”災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)		得点	4.1	
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯地域係数1.2×用途係数1.25=1.5倍	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備		
		”しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)		得点	3.1
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法円滑化基準の計画とした。  ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑建物の一部に地域活動室を設け、地域の活動・交流に協力	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
”緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)		得点	3.0		
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉓外構緑化指数30%を確保した。(屋上緑化も含む) ㉓緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。  ■敷地外環境対策 (㉔温熱環境悪化の改善) ㉔隣棟間隔指標を7.2とした。	Q-3 1 ⑳ 2 ㉒ 3 3.2 ㉓  LR-3 2 2.2 ㉔	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 ㉔ 温熱環境悪化の改善			